

# 初心忘るべからず

梅の蕾もほころびはじめ、長い冬を越えてもう春はそこまで来ています。

先月 28 日 木曜日、中学生の頃より熱心に活動を続け、最学年として委員会の屋台骨として後輩を導いてきた高校 3 年生の「卒業を祝う会」が催されました。集まった委員は中学 1 年生から高校 2 年生まで、約 35 名。後輩からは「先輩たちの後姿を見て、安心して活動に取り組みました。」「卒業しても、私たちの活動の様子を是非見に来てください。」と各学年の代表者からお世話になった先輩へのお礼の言葉が贈られました。



高校 1 年生の司会で始められ、和やかに会は進められました。卒業していく三年生から後輩たちへ思いは継承されていきます。

## 今年も 3 月 11 日が巡ってきました

あの日から 8 年という歳月を経て、私たちが見聞きしたことは、私たちの価値観に大きな影響をもたらしました。文明が発達しても人知では計り知れない自然の脅威、災害に限らず、この社会では知りえた人間が成すべきことを成すのが当たり前、この当たり前のように行うことができる力を、この活動を通じて身につけていくことが大切なのだと考えています。私たちは「震災を忘れない…」、東京オリンピックを来年にひかえ、社会がどれほど変わろうとも、月毎のたった一日でも私たちは被災地に思いを馳せ、心をよせていきます。

## 東北の現在を考えよう

◆ 東日本大震災の被災地の子どもたちも歳月を経て成長している。被害の最も大きかった岩手県・宮城県・福島県では、高校生や大学生による復興を支える活動が盛んである。2 月、福島大学の農業経済学のゼミ生は、大学近くの水田で酒米「五百万石」を育て、オリジナルの酒造りと販売に挑んでいる。福島県内で造られる日本酒は昨年、全国新酒鑑評会で金賞の数が 6 年連続の日本一となり評価が高い。一方、県産米は今も、東京電力福島第一原発事故による根強い風評で事故前の価格を回復できていない。農林水産省の調査によると、県産米の全国平均との価格差は 14 年産で 10・4%まで開き、16 年産でも 4・9%にしか改善していない。ゼミ生の思いは「県産米のブランドの復権と価値向上を目指したい」ということだそう。

◆ 被災地の東北であっても、学生・生徒が取り組む活動は、この 8 年間で変わってきているようだ。震災直後は、がれき処理や泥かきなどの作業が主流だったのが、被災地の状況が落ち着くにつれ、仮設住宅に住む高齢者のコミュニティ作りを支援したり、地域の食材を使ったメニューを考案して PR したりと多様化してきている。

ただ最近では、震災当時の記憶があまりない世代が増え、学生が自主的に行ってきた活動が途絶えるケースも出てきているという。震災の記憶を「風化」させないためには何をすべきか、抱えている課題は大きい。

## 岡山県真備地区の現在

1月30日に倉敷市は、昨年の西日本豪雨の際、倉敷市真備地区に居住していた9400世帯から2900世帯（有効回答1495世帯）を無作為に抽出し、アンケートを実施しました。その結果の速報が右の図の通りです。

学校など自宅以外に避難したのは56・8%で、43・2%は自宅など当時の場所から動いていなかった。豪雨以前に避難場所を考えていなかった人も62・0%に上りました。公共施設に避難した人でも、地区全域に避難指示が出た7日午前1時半から4時間半がたった同6時以降だったケースが18・1%にもなっています。

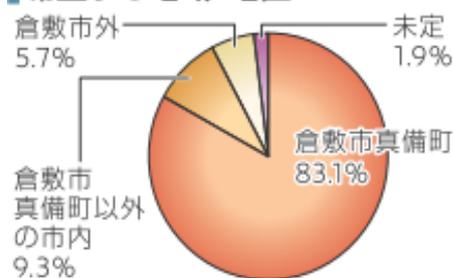
市は地区の全被災世帯（約5700世帯）を対象に、昨年12月中旬～1月中旬に行った「住宅再建に関するアンケート」の結果も明らかにしました。回答した約3300世帯のうち83・1%が真備町地区での居住を希望しました。

豪雨から8カ月が過ぎ、倉敷市内の仮設住宅に一旦移り住んだ人たちも、ようやく真備町に戻ってくる動きも見られそうです。コンビニ、スーパー、クリーニング屋、介護施設など真備地区に事業所を持つ18の企業が、先日就職説明会を実施しました。求人情報を探しにきた40代の男性は「長く住むためにも、しっかり働ける環境が欲しい。」と話しているという。市もこうした流れのなかで、「就職を通じ、仮設などで町を離れている人が町に戻るきっかけになれば」と、さらに就職イベントを企画し、復興への足掛かりを掴もうとしています。

### 西日本豪雨での避難行動



### 今後居住する予定・もしくは居住を希望する地域・地区



## 活動ご支援ありがとうございました～岡山県

先月号にて、本校を卒業した生徒の親戚のなかに、岡山県倉敷市にある真備町岡田地区で被災された方がいるとお聞きしたのをきっかけにして、東日本被災地応援実行委員会から、生活に必要なとされるものがあれば是非送らせて頂きたいと考え、先月12日から16日までの5日間、校門にて支援物資の献品を呼びかけました。お蔭様で、カイロやインスタントラーメンなどといった物資が集まりました。ありがとうございます。お預かりした品物は大切に梱包して、真備町に送らせていただきます。

